

# 奥会津 だより

2001年初秋  
第7号

## じいちゃんと一緒にがいい



写真：こじまじゅん

夕焼けははるかしのりの青空だ

奥会津俳句大賞特別賞

小中高生の部「歳時記の郷・奥会津俳句大賞」準賞

横田小学校 横田 実緒

### 「只見川電源流域 振興協議会の歴史」②

「歳時記の郷・奥会津ブランド化計画」が平成四年度に策定され進められていきました。これにより地域のイメージが生まれ浸透し、奥会津はひとつという9ヶ町村の協働の取り組みが実を結んでいったのです。

実施事業の大枠な内容は、広域的視野で立ち寄り拠点を整備すること、地域全体で観光PRに取り組むことでした。

こうした取り組みの結果、9町村が連携して地域おこしに力を注ぐ機運が醸成され、観光の核となる基盤も整いました。いわば平成11年度までの協働の展開は、「歳時記の郷・奥会津」の誕生期といえるでしょう。さらに、これらの取り組みは、国の「全国総合開発計画」の考え方の基礎ともなっています。

一方で、拠点整備のようなハード的な事業を主体に推し進めてきたことに対する反省も生まれました。施設や設備と同時に必要なのは、それらを住民が十分に活用する仕組みや、「歳時記の郷」と呼ぶにふさわしい奥会津の暮らし方を見つめなおす作業です。

奥会津の歴史を刻む第2期の取り組みは、住民が真の主役となって地域を考えることです。住民自ら考え行動することを、協議会がいかに支えられるかが最大の眼目となるでしょう。



# 集落の元気をとりもどそう

地方分権の時代が来たといわれますが、分権とは煎じ詰めれば「自分たちのことは自分たちで決める」ことです。地域づくりも、自治の最小単位である集落が元気になるなければ活性化は達成できません。

高度成長からバブル経済崩壊後も、人・物が都会に集中し、私たちの地域は、過疎化・少子高齢化・地場産業の不振が続いています。集落が盛っていた頃の相互扶助の機能や伝統文化を維持する機能も弱まっています。

この地に暮らし、これからのこの地で生きていく私たちは、今一度、集落の持つ様々な資源（農産物、観光資源、歴史的遺産、伝統文化等）を見直し、時代の潮流を見据え、現代的な活用策を考え出す必要があります。

住んでいる私たちが愛着と誇りを持つ集落づくりを進め、これが寄り集まって町村あるいは奥会津全体の魅力につながってほしいと思います。

集落の活性化に向けた計画づくりの重要性がここにあり、住民が知恵を出し参加しなければ、集落の元気を取り戻すことはできません。これからは住民一人ひとりの意識や考え方が反映され、多くの人々の力を結集して進めていくこと

が求められています。そうすれば自ずと打開策は見えてくるものです。集落の活性化の第一は、人がより意欲的・行動的になることです。そのためには集落の共通の将来像をみなで描いていくことが大事です。課題の認識と同時に、使える資源を活かす方法を皆で語り合っている中で、共通の連帯感も生まれてくると思います。集落でいろいろな活動の計画を立てて、自分たちでできることは自分たちで行い、行政や他団体の協力が必要なことは協力を得ながら進めていく、ここに自治の基本があります。

子供からお年寄りまで皆に関わることに、集落の誇りが各世代に見いだすものになるかと思いません。集落での様々な活動が活発に行われる社会をつくり、その活動が流域の中で積み重ねられることによって、地域が変わっていくということになります。山村は都市と異なる「豊かさ」を持っています。山村における活性化の出発点は、住民が山村の持つ「豊かさ」の価値を知り、それを精一杯追い求めて行くところにあります。

奥会津全集落で「集落活性化計画」づくりに取り組み、元気のものと作りましょう。

## ふるさとを 美しいままに

\*\*\*\*\*

雪解けとともに一斉に芽吹く山々  
水と緑の奔流、生き物たちの命  
紅葉に燃える山々  
白一色の世界



奥会津は豊かな自然の恵みを受け、自然と共に暮らしを紡いできたところです。人間が決して作り出すことなど出来ない自然を守り、自然と向き合う営みの中で育まれてきた文化は、私たちがここで生きる姿勢と深く関わっています。厳しい自然は歳時記を生み、それに添う暮らしの智慧も生み出しました。厳しくあればこそ恵みもある自然の摂理は、ここで生きる私たちに力強い節を作ってくれたのではないのでしょうか。

便利さと本当の便利さと本当の豊かさとは、質の違うものかもしれないと気がつき始めた今、家の周りの畑から野菜を摘み、干し柿を吊るし、大根を干し、山菜を保存する当たり前の日常が、人間らしくありたいと願う人々にとって、心安らぐ光景です。

私たちがこの暮らしを豊かに受け止め、誇りを持って次の世代に引き継げるなら、自然と共に生きる高い精神性をも引き渡すことができることでしょう。



たとえ人口が少なくても、地域に根ざして堂々と生きる私たちが互いを敬い、支えあうことができたら、ふるさととは美しいままに生き続け、ここを訪れる人たちに豊かな安らぎをもたらします。

## 残したい景観



生活するうえで危険なことや不便なことを改めて、いままでもさまざまな解決策が講じられてきました。充分ではないかもしれませんが、私たちはかなり快適な暮らしを手に入れました。これからは現在残された景観を守っていくことが、奥会津に生きる私たちの姿勢そのものの象徴となるでしょう。

本当の豊かさを象徴する景観を創造する努力を、9つの町村が思いを同じくして実現しようとしています。

(景観ガイドラインが策定されました。詳細は次号に掲載いたします。)



写真…山浦 芳明



# 宝物つて何?

今回は、奥会津の自然に精通した「自然博士」だけが知っている「我が宝」を少しだけご紹介しましょう。今回ご紹介するのは、館岩村の小勝玉夫さんに教えてもらった無銘の名瀑と、檜枝岐村の星寛さんに教えてもらったニリンソウの大群落です。

## 〈無名の名瀑・命名 石玉の滝〉

館岩川の支流湯ノ岐川の上流部、曲屋で有名な水引集落を過ぎ、さらに田代山への登山口に至る村道田代線から分かれて、さらに林道を終点まで。そこから沢沿いを歩いて約1時間。まるで有名な造園家が自然石を巧みに組んで造ったかのような高さ20mほどの石組みの上から、水しぶきの玉を飛び散らせながら流れ落ちる滝は、山を融通無碍に歩きまわるマタギのみが知っている無名の名瀑です。

その傍らにシャクナゲが咲き、日の光に水しぶきがキラキラ輝くとき、この滝は最高に美しいと玉夫さんと言います。

## 〈ニリンソウの大群落〉

檜枝岐村の集落から帝釈山方面に入ったところにある沢は寛さんのサンショウウオ捕りのフィールドです。所々にある小さな流れの落ち込みにズウと呼ばれる仕掛けをかけながら上流へと歩いていくと、周囲の森林

のなかにポカンと明るく開けた緩やかな斜面が現れます。その斜面はニリンソウという真っ白な花で覆われていました。普通2輪の花を咲かせることからその名がついたこの花が、これほどまとまって群生しているところは檜枝岐でも珍しく、この花で斜面が真っ白になるのを見ると、檜枝岐に本格的な春が訪れたことを実感すると寛さんは言います。

今回はお二人の自然博士にとつておきの宝物を見せてもらいました。また、その途中ではフキ採りを手伝ったり、クマの食痕やクマだなを教えてもらったり、サンショウウオやヤマドリを巣を見つけたりと、まさに宝の山を歩くような楽しさでした。山から戻ってもそれぞれの自宅で奥様自慢の山菜をご馳走になったり、温泉につかったり、これぞエコツーリズムの真髄を体験させていただきました。奥会津には、きつとそこに暮らす人の数だけ「我が

宝」があるのではないでしょう。それらは全て奥会津の宝物です。こんなステキな宝物を後世に伝えていくためにも、今を生きる人々が誇りをもって心豊かにその土地で暮らしていける仕組みが必要で、奥会津の宝物には都市の人々を奥会津ファンにしてしまう魅力があります。エコツーリズムはそんな仕組みづくりのための一つの考え方です。

(株)プレック研究所 松井 孝子



## 写真の郷づくりがめざすもの



風景写真の第一人者・竹内敏信氏を招いての撮影会や、現在只見町の川のものしり館で開かれている写真展「奥会津秀麗」など、フォトコンテストをゴールに写真を通して地域をみつめようという試みははじまりました。

これは、当たり前だと思っていたわたしたちの周囲や暮らしが、実は鮮やかに光彩を放つかけがえない宝に囲まれていることを見直す取り組みでもあります。

美しいと感じる風景や一コマに心を集中させる一瞬が、確かな記録を残します。十年後の同じ場所の変遷をみることも出来ます。そして豊かさに気付く、残そうと努力する機運が生まれることを願っています。

地域外から撮影会に参加した方々は、素材の豊かさに一様に感動していました。この多くの方々も、私たちと一緒に景観を守る努力をしてくれることでしょう。

大切な景観を守る努力は、ファインダーを覗いた瞬間から始まっているのです。

## トピックス

### 奥会津世話人 登場!

柳津町観光協会理事

塩田啓介さん



旅行会社勤務の経験を生かして、家業の宿を運営して十六年目を迎えています。

地域おこしは実践から、「歳時記の郷・奥会津研究会」に所属し、今後の活動を模索中です。また、国際エコノミストの奥崎喜久先生らとともに、福島ラウンドテーブルの立ち上げに参加しています。私たちの合言葉は「地域おこしは自分から」です。

近々ホームページ上で、広くみなさまからご意見ご感想をいただいたり、私たちの活動に賛同していただき、ご参加、ご協力をお願いしたいと願っています。

志を同じくする者が集まれば、パワー全開でがんばって行けると思っています。





# いべんと告知板

## ●第6回

### 歳時記の郷 奥会津 全国俳句大会

第6回を迎える「歳時記の郷 全国俳句大会」は、館岩村で開催されます。

#### 大会プログラム

- 9月1日(土) 午後1時開会
- ・最優秀特別作品の披露、選者の講評、表彰
- ・シンポジウム パネリストは選者の今井杏太郎、黒田杏子、藤村多加夫、榎本好宏の四先生
- ・懇親パーティー（郷土芸能披露など）
- ・現地の囃目吟を一人一句で夕方まで募集します（無料）。
- 9月2日(日) 午前9時開会
- ・囃目吟の選者特選作品発表、講評、表彰
- ・講演 細谷良太先生
- 「お年よりと暮らす喜び」
- 聖路加病院小児科部長 俳人

## ●「歳時記の郷

### フォトコンテスト」

歳時記の郷・奥会津9ヶ町村の写真作品を募集中です。

表彰式は来年2/24、只見町 深沢温泉・季の郷湯ら里で行います。応募要項は左記まで。

(株)フレイムマンフォトテクノ  
電話・03-3452-1132 7

## ●竹内敏信氏写真展

### 「奥会津秀麗」

8/20  
只見町・川のものしり館  
8/24～9/19  
昭和村からむし織の里・織姫交流館

## ●尾瀬街道トレイル

### ウォーク

9/29～10/1  
只見川・伊南川流域をたどり、尾瀬に至るウォーキングツアーです。

#### 里、川沿い、峠越え

尾瀬沼と尾瀬ヶ原・ブナ林の秋を存分にお楽しみください。完歩者には、日本市民スポーツ連盟パスポートに、国際市民スポーツ連盟の距離及び、参加回数認定印が押印されます。また、一日ごとのゴールで完歩証をお渡しします。

●参加資格…3日間で60kmを踏破できる方ならどなたでも参加できます。

- 9/29(土) 柳津町集合  
10キロウォーク
- 9/30(日) 柳津町集合  
30キロウォーク
- 10/1(月) 檜枝岐村集合  
20キロウォーク



## 清流に親しむ 各市町村の取り組み その2

住民が中心になって手がけてきた河川の周囲の保全や美化運動は、昨年に引き続き9か町村・15団体によって実施されます。

#### 南郷村

◆伊南川の魚たちとのふれあい  
環境整備推進協議会  
(親水公園美化、魚放流、魚の観察)

#### 伊南村

◆クリーン作戦  
(伊南川河川清掃)  
◆親水交流事業  
(魚放流)

#### ◆景観形成事業

(伊南川周辺植栽)  
◆フラワーパーク事業  
(休耕田植栽)

#### 伊南村観光協会

#### ◆館岩村

◆会津高原 たていわ夏祭り  
「子供溪流祭り」  
館岩村観光協会  
(いかだづくり、いかだのり、魚つかみ取り)

#### ◆檜枝岐村

◆川で遊ぼう、川で学ぼう  
ひのえまたオコジョク  
ラブ実行委員会  
(河川の清掃、魚つかみ取り、自然観察、魚放流)

了

# EVENTカレンダー 秋 9月～10月

◎月日◎名称(★要予約) ◎町村から一言

9/1	檜枝岐歌舞伎の夕べ	檜枝岐	200年以上続く伝統芸能。 開演6時30分～ 入場料1,000円(村内宿泊者は無料)。
9/5・6	豊年まつり	只見町	町内各地でみこしや仮装大会などを行います。
9/5	豊年まつり	南郷村	花火大会・仮装大会・ちびっこカラオケ大会などもりだくさん。
9/9～10	古町のまつり	伊南村	300年以上続く古式豊かな村の伝統行事。 夜は青年会による豊年踊りも行われます。
9/13	いちよう座公演(朗読劇)	昭和村	歯の痛いワニ、エンとケラとブン、ほか。
9/15	西山温泉マス釣り大会	柳津町	初心者も熟練者も楽しめます。各賞あり。 大声コンテストやお楽しみ抽選会あり。
10/6～8	只見線SL走行	柳津町	「幻のライン」復活。鉄道ファンには見逃せません。
10/7	美坂高原牛肉祭り	三島町	広い草原で牛肉やきのこに舌鼓。ゲームやアトラクションも一杯。
10/7	伊南武道館少年剣道大会	伊南村	剣道を通して他地域の子供たちの交流を図ります。
10/21	柳津博士高原新そば祭	柳津町	博士高原産新そばの実演、販売。なめこ汁の無料サービス。 各種イベントもあり。
10/21	第16回ゴーマン杯・ふるさと健康マラソン大会	館岩村	参加資格・小学生以上で健康に自信があり完走できる人。 館岩村教育委員会(0241-78-3385)まで
10/20・21	アイリッシュコンサート	金山町	湖と妖精のフェスティバルの一環として、ジョー・パーク氏夫妻によるアイルランドの伝統音楽の演奏会を開催。妖精美術館等。
10/27	第14回会津高原たていわ新そば祭り	館岩村	新そば粉の風味を堪能してください。1,500食で締切。 たていわそば祭り実行委員会(0241-78-3340)まで。